

# たくさんの人とお話することが仕事 それが自分自身を成長させてくれる

2004年の入社以来「北海道日産自動車 月寒店」に勤務し、現在カーライフアドバイザー主任として活躍されている高浜由喜子さん。人と関わることへの興味から心理学を学んだ大学時代の4年間、学業の傍ら飲食業のアルバイトをする日々を過ごし、「頑張れば昇給することを通じて、働く意味を知ったんです。それで、就活の時はとにかく早く社会に出たいという思いが強く、そして何事もやってみなければ分からないという意識でした」と振り返る。一方その時期、バブル期以降10年ほど女性採用を見送っていた同社は、女性ユーザーへのこれまでは違う形の対応が求められる時代が来るとの予測のもと、新たな人材を求めていたという。こうした偶然が重なって、高浜さんは自動車業界へ身を投じるようになった。しかし「実は、学生の頃からクルマには全く興味がなくて、構造や技術を勉強してもなかなか身に付かなかったんです(笑)。ただ、配属後しばらくは受付の補佐をしていたこともあり、お客様とお話をする中で分からないことが出て、直ぐにサービスの皆さんや諸先輩に引き継ぐことができました。そのような繰り返しの日々の中で少しずつ知識を貯え、仕事を覚えることができました」という。しかし、努力の結果は販売実績という形で直ぐに現れ、高浜さんは実力派として社内でも一目置かれる存在になった。その当時、別の拠点のサービスフロントだった納谷和博店



高浜 由喜子(たかはま ゆきこ)さん。  
千歳市出身。33歳。北星学園大学・社会福祉学部卒業。2004年4月入社。マイカー「モコ・ドルチェ」。

「長も「評判は当時のサービススタッフ達の耳にも届きましたよ。彼女がしっかりと実績を残してくれたからこそ、その後も当社はコンスタントに女性を採用するようになったんです」とキッパリ。その後も、全国の優秀なカーライフアドバイザーをメーカーが表彰する「ウィナーズコンベンション」に3年連続で招待されるなど、同社のエースとして目覚ましい実績を積み重ねている。

今後どのように仕事に取り組まれるかお尋ねしたところ「私自身は、お客様はもちろん、たくさんの方とお話することが仕事だと考えています。その中で発見したり吸収できることはとても多く、ゆくゆくは自分を成長させてくれます。今後もそれを貫いて、一営業マンとしてやっていきたいですし、もし望まれるのであればもっと上も目指していきたいとも思います」と胸を張る。

そんな高浜さんを見守る納谷店長は「今、当社では当店が初めて、女性ユーザーへ適切に対応する体制を備えた拠点に対してメーカーが認定する「レディファースト店舗」への申請をしました。彼女はその中心となる存在です。本人は自ら攻めるタイプではないなどと言いますが、自然体のままでも人を引きつけることができるチカラがあります。これからも、そのチカラを存分に発揮してもらいたいですね」と頷く。



「いずれは、店長にもなれる逸材です」と納谷店長も絶賛



【取材協力】北海道日産自動車 月寒店  
札幌市豊平区月寒中央通11丁目6-1  
電話 011-852-1535

# 仕事に輝く彩女図鑑

ディーラー編 Vol.09

取材・写真/青柳 健司 (フォトライター)

女性時代到来と言われる今、ビジネスの「線」で生き生きと鮮やかに活躍されている「彩女(さいじょ)」。私たちの思いを綴る。クルマをつくる人、売る人は男性が中心であった。モータリゼーションも、男性主導で成り遂げたものと云える。しかし、次世代のクルマ社会は、女性の視点や活躍なくして成長も望めないの本誌は考える。そしていま、自動車ディーラーでは女性のセールスコンサルタントやショールームレディが日々活躍し輝いている。そんな彼女たちの素顔と活躍ぶりに触れていこう。

女性時代到来と言われる今、ビジネスの「線」で生き生きと鮮やかに活躍されている



**第9回**  
北海道日産自動車  
月寒店  
**高浜由喜子**  
さん